

市民が関わって作る

ごみ広報紙大集合！

市民目線で、
読まれる広報紙をめざして

自治体では、広報紙にごみの特集やコラムを掲載したり、単独のごみ情報紙を作るなどして、ごみの現状を伝え、減量の啓発を行っています。

このような印刷物の作成は、行政サイドで行われるのが普通ですが、市民目線でのわかりやすい情報発信が期待され、そこに市民が関わるケースもあります。

まだまだ先進事例のようですが、実際に「紙面づくり」に関わっている市民の方々に集まっていただき、座談会を行いました。「市民の役に立ち、読まれる情報紙作り」という共通のミッションの下に、苦労話あり、ヒントありで、あっという間の2時間でした。



葉山町
ごみへらし隊
時津彩子



東村山市
美住リサイクルショップ運営委員会
上村麻弓



多摩市
たまごみ会議
江川美穂子



日野市
日野市ごみ減量推進市民会議
小野寺勲



清瀬市
清瀬ごみともだち
織田祐輔



司会とまとめ
ごみ・環境ビジョン21 理事
井上真紀子



まずは自己紹介をお願いします



神奈川県葉山町から来ました時津です。人口3万人の葉山町には「ごみへらし隊」という町が集めたボランティアグループがありまして、「ごみっぺらし通信」という広報紙を作っています。メンバーは40人くらいですが、実際に動いているのは約10人。通信を出して3年くらいになりますね。



清瀬市の「清瀬ごみともだち」の代表をしている織田です。

1990年代に多摩地域の最終処分場・谷戸沢の問題が持ち上がり、1994年でしたか、その問題を取り上げたドキュメンタリー映画「水からの速達」の上映会に参加したのが、私自身がごみ問題に関わるようになったきっかけです。

それまではふつうにサラリーマンをしていましたが、映画を観て「これは放っておくわけにはいかな」という気持ちになりました。その後、所沢のダイオキシン問題が起こって「清瀬ダイオキシン等対策協議会」ができ、そこの副会長も務めています。

行政に働きかけてどう成果をあげていくか、ということで、市の広報にも関わるようになりました。



東村山市の上村です。私が所属しているのは美住リサイクルショップ運営委員会という、行政の中にある組織です。

1998年にできた美住リサイクルショップ（愛称：夢ハウス）は、ごみ減量のための市民の活動拠点として、市が募集した委員が運営しています。

そして運営委員会で「夢ハウスだより」というごみ減量とリサイクルの情報紙を発行しています。



夢ハウスの前庭で開催される「夢ハウスまつり」



日野市の小野寺です。日野市にはごみ関係の市民活動団体がいくつかあります。

主としてプラスチックのごみ減量に取り組んでいる「日野市ごみ減量推進市民会議」。生ごみ減量に取り組んでいる「ひの・まちの生ごみを考える会」。この会から派生した、ダンボールコンポストの普及に力を注いでいる「生ごみリサイクルサポーター連絡会」。生ごみ堆肥で野菜作りをしているコミュニティガーデン「せせらぎ農園」と「明神畑・芽ぐらす」。それぞれの団体が市の広報活動に関与しています。



多摩市の江川です。多摩市は日野市の隣でして、日野市のごみ減量活動にたいへん刺激を受けています。特に行政と市民が協働するという点をお手本に、多摩市もがんばっています。

私が所属しているのは「たまごみ会議」という、2000年に市がごみの収集方式を変える時に募集してつくった市民団体です。最初は正直、お互いにギクシャクしたこともあります。そのうち、協働の担い手として市民のアイデアが積極的に求められるようになりました。また、行政担当者は異動があるので、継続的な活動をしている市民が頼りにされるようになり、言いたい事も言い合えるようになりました。そんな中で行政の広報にも関わるようになりました。



葉山の『ペ』はつい手にとりたくなる！



今日お集まりいただいた5名のうち、4人の方は多摩地域からですが、時津さんだけは遠く神奈川県葉山町から来ていただきました。

昨年秋のごみ大学に、葉山町生活環境部の雨宮さんを講師にお呼びしたのですが、その時持ってきたごみ減量の広報紙「ごみっぺらし通信」が、イラスト満載で手作り感がすばらしかったので、今日は編集担当の時津さんにぜひ、ということでお呼びしたのですが…。



ありがとうございます。「ごみへらし隊」ができて何回目かの会合で、行政が出す堅苦しいものではなくて、ごみに関心の薄い人の「ごみのこと、ここがよくわからない」という声にわかりやすく丁寧にこたえる広報が必要だよ、と

いう声があがり「じゃあ私たちが作ってみようよ」という流れでできたのが「ごみっぺらし通信」です。



3年間で20号って、すごい！制作する時に気をつけていることはありますか？



2008年の町長選で、前の町長が「ごみ処理広域化を見直し、脱焼却・脱埋立てを目指す」（当時、横須賀市、三浦市とのごみ処理広域化計画があった）という公約を出して当選しました。そこでごみ減量は背水の陣で臨むことになり、大きく動きました。でも今は、下水道の問題が優先課題になってごみ問題は少し押しやられた感じです。

通信を作る時に気をつけているのは、ごみに関心がない人に読んでもらうためにタイトルや見出しに「ごみ」という言葉をあまり使わないようにしていることです。関心のない人って「ごみ」という文字を見たときに拒否反応を示すので、「なんだ、これ？」と思って読んでほしいから。



この大きく「ペ」と書いてあるのが、ほんとに「何？これ？」って目をひきますよね。





これを考えたのは市民ではなくて、職員の雨宮さんなんです。最初は「ごみ新聞」とか、ありきたりの名前だったのですが「そんな

最新の20号と創刊号




のつまらない！」って。この辺が背水の陣だったんですね（笑）


 ごみっぺらし通信は全戸配布？ また、どんな流れで制作しているんですか？

 いえ、町内回覧が主で、あとは郵便局や図書館、銀行にバックナンバーが置いてあります。また、生ごみ処理の実演をやっている時に手配りしたり、メンバーでポスティングしたり。

町の広報に挟み込みができればいいんですが、予算がなくてできないんです。


内容はみんなで決め、私がおおざっぱなレイアウトをしてカットを描いています。最後は職員の方が整えてくれます。もうすぐ7ヶ月ぶりの21号ができあがります。


 東村山は夢ハウスからごみ情報紙を発行

 東村山のごみ広報の話の前に、美住リサイクルショップ運営委員会ができた背景をちょっとお話します。

1990年代に所沢ダイオキシン問題や焼却施設の建て替え問題などで、東村山では市民と行政の対立がありました。これをなんとかしようと、市は「やむを得ず」という感じで市民を入れた市民協議会というのをつくりました。

そして、市民協議会が作成した「秋水園再生計画プラン98」の中で、生ごみ堆肥化を進めるグループや、焼却ではない次世代のごみ処理施設を探るグループなどができるはずでしたが、それらは頓挫してしまい、残ったのがごみ問題の啓発活動をする「美住リサイクルショップ運営委員会」なんです。


 夢ハウスという運営委員会の建物があるというというのはうらやましいですね。

 そうですね。当時はちゃんと市役所の中に市民協議会のための席があって、建物の設計から関わりました。委員にはわずかですが報酬も出ます。


運営委員会のメンバーは20人くらいいますが、広報の編集は私を中心に数人でやっています。と


にかく堅苦しくならないように、読みやすいように工夫して、年3回発行しています。

問題は印刷なんです。前は印刷会社に頼んでいましたが、予算を削減されて発行回数が減らされそうになったので、それならば、ということで、70,000部を自分たちで刷っているんですよ。印刷機は美住リサイクルショップにあります。4日間、20時間以上かけて印刷しています。

 それは大変ですね！ でも東村山の場合は、市報と一緒に、ポスティングでの全戸配布だそうですから、やりがいがありますよね。

新聞折り込みで配られる市報もありますが、今は新聞をとっている家庭が少なくなってきて、市報自体が行き渡っていないということもありますから。

 また東村山市では最近、秋水園内に計画されたりサイクルセンターの建設の是非をめぐって、市民団体が住民投票条例の制定を求めて、新聞を賑わしたりしました。でも、8月末の本議会で否決されたところです。

 そんな風にごみ問題をめぐって市民と行政のもめ事がある時って、ごみに関心を持つ人が増えて、広報がよく読まれたりしませんか？





それはありますね。それでもめ事こそ市報では報じられないですから、私たちの手で市民に知らせる必要があると思うんです。

実は今年3月の「夢ハウスだより」は、まさにもめている最中の発行で、資源環境部長にインタビューした記事を書きました。



これはいいですね。いくら発行責任者は運営委員会だとはいえ、市報と一緒に配られるということですから、すごいことですよ。



東村山市では資源循環部からも、年に2、3回「ごみ見聞録」という情報紙が出ています。市民から見ると同じようなごみ問題の情報紙と思われて、予算面などから一本化した方がいいという意見もありますが、独自性を考えると、やはりこのままがいいかな、と。



清瀬は市報に市民が担うコーナーをGET!



お話を聞くと、葉山も東村山もごみ広報の主導権を行政から勝ち得ているように思えますが、清瀬市はまだまだそこまでいきません。広報に関わるようになったいきさつをお話します。

昨年年初に、私が関わる「清瀬ごみともだち」と「清瀬ダイオキシン等対策協議会」が共同で、市のごみ減量基本計画のあり方に苦言を呈したのです。

「10年で10%減」という乱暴な計画だったので、そうではなく「今年度はこうやってこれだけ減らす」という年次の目標や施策を立て、その結果を「みなさんの協力のおかげでこれだけ減りました」と市民にきちんと公表する。そうした中で市も緊張感を持ち、市民もがんばって減量が進むのではないか、ということを書いたんです。

また、いまだに分別方法もわからない市民もいるので「ごみ減量につながる分別や生活のしかたを丁寧に伝えるコーナーを、市報の中に作って欲しい」と頼んだところ、こちらはすんなり通って、「では、みなさんで書いてくれませんか」ということになりました。

月2回、1日と15日に発行される市報の1日号



みんなで筆を執る「ごみ減量大作戦」のコーナー



に紙面1/4の「ごみ減量大作戦」というコーナーがあり、そこを私たちが担っています。



どんな内容で書くか、悩みませんか？



実は私のうちは79戸が入るマンションで、理事長をしている時に、いつもごみ出しスペースが乱れているのが気になっていました。そこで「こうして分別しよう。こうやってごみを減らそう」というようなことを、いろいろと知恵を絞り、工夫して書き出しまして、2年間ほど掲示していたんです。

そんな経験があったので「1年間こんな風に回せるよ」とわかっていたし、掲示物を読んだ人の反響も管理人さんから聞いていたので、それも参考に市原稿を書くのもスムーズにきました。

今はごみともだちやダイオキシン協議会のメンバーで順番に、いろんな視点から書いてもらうようにしています。



さすが、市民が書いているだけに内容がとてもいいですね。



スペースが小さいのでもっと大きくもらえれば、絵を増やしたり、かみくだいたりできるんですけどね。



日野市では市民が「市民のページ」を編集



日野市では、月2回発行される市の広報にも、年に3、4回はごみ特集として1面にごみの記事が載ります。ただ、こちらには市民は関わっていません。

市民が関わっているのは、ごみ問題だけを扱っている「eco (エコ)」という情報紙です。最初は4ページでしたが、今は8ページです。

日野市は2000年10月に「ダストボックスの廃止、有料化、戸別収集」という3点セットの大きな改革がありました。それに伴い、2001年から2002年にかけて「ごみゼロプラン」という、いわゆるごみ処理基本計画を市と市民が一緒になって作りました。これがベースになって2002年から日野市ごみ減量推進市民会議という行政主導ではありますが、市民が中心となった団体ができました。この団体が任されて作っているのが「eco」の中の「市民のページ」です。



内容がとても多岐にわたっていますね。最新号は段ボールコンポストについてとても丁寧に書いていますね。



それ以外にも、去年の秋ですが「会議でのペットボトルの使用をやめよう」という呼びかけも行っています。今はもう市の会議では

ペットボトルは使っていないはずですよ。

内容はもちろん、レイアウトのラフスケッチも我々で描き、イラストもこんな風に描いてほしいと希望も出しています。あとはプロが版下を作ります。「eco」は年2回、単独で全戸にポストイングされます。



日野市の場合はごみカレンダーにも「市民のページ」を1ページ任されていて、ほんとうに市と市民の協働が定着していますね。



多摩市の協働は次のステップへ



最後に多摩市のごみ広報です。ダストボックス方式でごみの収集をしていた多摩市は、2000年にこれをやめて、2008年に家庭ごみ有料化、戸別収集に踏み切りました。この頃が行政も市民も一番燃えていたかな。今は一段落した感じで、特集などを除くと、市報の中では通常、ごみ関連のスペースは決して大きくありませんが、今年度から2ヶ月に1回「今日から実践！ごみ減量ワンポイント」というコラムを、たまごみ会議のメンバーが順番で書いています。

そして、こちらはごみの情報紙「ACTA (アクタ)」で、20年前からごみ対策課が発行しています。年4回発行の時もありましたが、3回になり、今年度は2回に減らされてしまいました。

「協力：たまごみ会議」と書いてありますが、以前は、職員と市民と編集の委託会社とで編集会議をして一緒に作った時期もありました。今は、その時間もないほど職員が多忙ということで、あまり意見を求められることもなく完成している感じですが、中に、市民活動の紹介のコーナーがあって、そこに原稿を提供したりしています。



でも、たまごみ会議は、毎月職員と一緒に会議をしているんですね。



はい。会議では広報だけでなく、ごみ減量の取組みの「ここを変えよう！」という意見を市民からどん

6画「市民のページ」

このライフスタイルを変えよう!

マイボトルを持ち歩き、ペットボトルを買わないようにしましょう!

マイボトルでエネルギーを節約!

ペットボトル飲料水は、生産から自販機での販売までのエネルギーを消費し、多くのCO₂を排出します。マイボトル(水筒)に水道水を詰め、外出先でペットボトル飲料水を買わずにエネルギーを節約でき、CO₂を削減できます。

ペットボトルのCO₂排出量は水道水の数十倍

ペットボトル飲料水と水道水のCO₂排出量の比較

飲料水500cc相当のCO₂

項目	排出量 (g)
輸入のペットボトル飲料水を飲んだ場合、冷水機の水道水を飲んだら、まとめて持って行った場合に比べて、数十倍のCO ₂ を排出	339
マイボトル(水筒)に水道水を詰め、外出先でペットボトル飲料水を買わずにエネルギーを節約でき、CO ₂ を削減できます。	22B

飲料水500cc相当のCO₂

- ペットボトル飲料水の生産・流通
- ペットボトル飲料水の販売
- ペットボトルの処分・リサイクル
- 水道水の供給
- 冷水機・浄水器の使用
- 飲用容器の使用

市民のページ 知恵袋 Part 2!

ごみ減量推進市民会議の企画・編集したコーナーです。

ごみ減量推進市民会議とは、日野市ごみ処理基本計画の策定・実施に貢献し、市民の協働で取り組んでいくこと。

会議などでは、ペットボトルの使用をやめよう!

イベントではペットボトルや使い捨て食器や割り箸は使わず、マイ食器やリユース食器や洗いたし器を使おう!

買ったごみの処理には税金が使われることも考えてね

買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋を断ろう!

マイ箸を持ち歩こう!

A 4見開き、カットも豊富な日野市のごみ情報誌「eco」の『市民のページ』



「たま広報」のコラム「ごみ減量ワンポイント」とごみ専門情報誌「ACTA」


どん出します。一緒に知恵を絞ると、大きな成果が生まれることがあります。

例えば、形骸化していたリサイクル協力店制度を廃止して、家庭ごみ有料化の時期に合わせて、多摩市オリジナルのエコショップ制度として内容を大きく見直しました。項目によって点数をつけて、認定基準に達する店舗をエコショップに認定し、認定店舗はごみの指定袋の販売手数料を12%にする、スーパーはエコショップにならないと指定袋を扱えない、などしました。これによって店舗のエコ度がぐんと上がったんです。


今年度は、さらに12%、10%、8%、6%と手数料にランクをつけて、制度を改定しましたが、中に、「ACTAなどの市の発行物を目のつきやすいところに掲示する」という項目もあり、101店舗中、97店舗が実施しています。


また、紙媒体ではありませんが、市内を走るバスでは市からのお知らせとして、ごみ減量のアナウンスが流れています。もちろんお金はかかりますが、以前はこのアナウンス内容もたまごみ会議で検討していました。


ごみ広報の理想のかたちは？


 職員と市民が最初から一緒に企画を立てて作り上げるというのは、けっこう大変ですね。むしろ日野市の「eco」のように、ある程度広いスペースを市民が任されて、それが全戸配布される、というのがいいですね。あとはどのくらい読んでもらえるか、ですね。

会の回覧は比較的好く読まれるようですが、それだけというのももったいないですね。


 葉山町の「広報はやま」は月に1回、冊子のかたちで新聞販売店に委託して全戸配布されるんです。「ごみっぺらし通信」もここに入れられたらいいんですけどね。


 とにかくどこの自治体も予算がなくて、ごみ広報も縮小される一方ですね。


 これは夢ですが、各世帯に専用のタブレットを配って市や町のお知らせを送れたらいいな—と思います。広報を制作と配布の何年分もの予算が浮くんじゃないかしら。

 お話を聞いていると、皆さんほんとうにがんばっていらっしゃる！ただ「行政と市民の協働」一緒といういいイメージだけけれど、お金が足りないところは市民にやらしてもらおう、というのが見るとちょっといやになりますよね。

私たちがこういう活動を始めた30代の頃は専業主婦が多く、担い手も多かった。今後30代、40代にもっと関わってほしいけれど、今の若い世代には経済的な面からもそうした余裕がないのかな。

 責任を持って行動する団体や、スキルを持った市民の活動には、ちゃんとお金が払われるようにしたいですね。こちらからも「市民はこんなことができます、予算化してください」ときちんと言っていきましょよ。

 「eco」がどのくらい読まれているか、以前アンケート調査をしたんですが、6割でしたね。

 6割はすごいじゃないですか。

葉山の「ごみっぺらし通信」のように市民がこんなにがんばって、わかりやすい情報紙を作っているのに…。町

★座談会で紹介した広報紙、情報紙は各自自治体のホームページからダウンロードすることができます。